

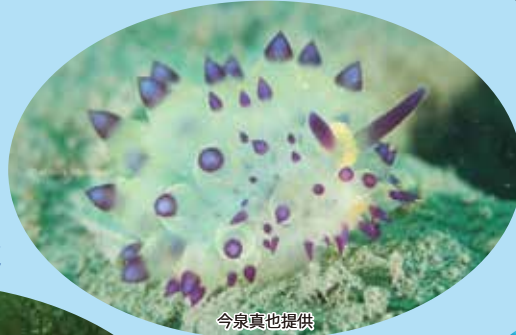
辺野古・大浦湾の 生き物たち

多種多様なサンゴたち



今泉真也提供

泥場の珍客 トゲトゲウミウシ



今泉真也提供

トウアカクマノミ



今泉真也提供

ウミガメ



琉球新報社提供

辺野古の海と魚達



(株) ワールドダイビング提供

大浦湾周辺で確認されたジュゴン



琉球新報社提供

Q24 辺野古新基地の埋立区域に軟弱地盤や活断層があるかどうかのような問題が起こるのでしょうか。

A

辺野古新基地の埋立区域の海底には、非常に緩く軟らかい「軟弱地盤※1」が広範に分布し、最深で水深90メートルにまで存在しています。

国は、この軟弱地盤に7万本以上もの砂杭等を打ち込む地盤改良工事を行うとしていますが、打ち込む深さは水深70メートルまでであり、それより深い場所では未改良の軟弱地盤が残ることになります。

また、そもそも国内における地盤改良工事の実績は水深約65メートルまでしかないことから、国内で前例のない非常に難しい工事になると考えられます。

さらに、新基地建設の予定地には、埋立部分と陸地の部分があり、埋立部分には軟弱地盤と堅い地盤が混在していることから、地盤が不均一に沈む「不同沈下※2」が長期にわたって発生することが想定されます。

また、埋立区域の直下とその近くには2つの断層があり、専門家は、これらの断層が地震発生リスクが高い「活断層※3」であると指摘しています。

埋立区域に存在する軟弱地盤により難工事が予想されることに加え、軟弱地盤と堅い地層の混在による不同沈下、活断層による地震発生リスクといった多くの懸念があるため、たとえ基地が完成したとしても安定的な運用は困難ではないかと考えています。

キーワード

● 軟弱地盤※1

強度が弱い地盤のことであり、その上に建造物を建造すると、地盤の沈下や崩壊が発生する可能性が高く、安全性を確保できない。

● 不同沈下※2

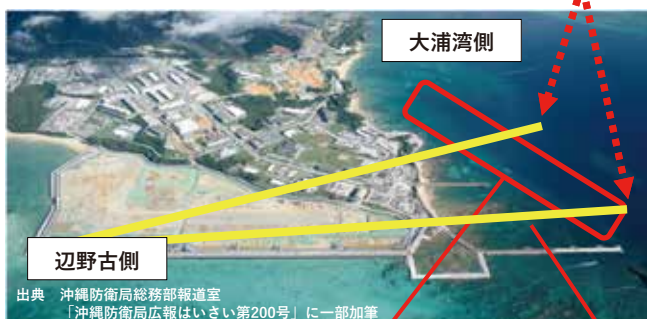
不均一に発生する地盤沈下のことであり、場所により地盤が沈下する幅が異なるため、地盤に起伏が生じる。

● 活断層※3

最近数十万年間に繰り返し活動し、将来も活動する可能性のある断層のことであり、その周辺では地震発生によるリスクが特に高い。

○ 2本のV字型滑走路 (黄色ライン)

1,800m × 2 ※滑走路の長さ1,200m、オーバーラン300m × 2



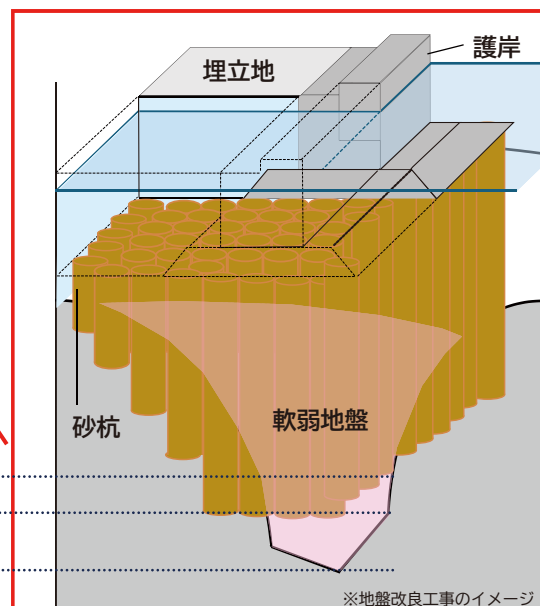
出典 沖縄防衛局総務部報道室
「沖縄防衛局広報はいさい第200号」に一部加筆

軟弱地盤の存在

(図中の赤線枠はおおよその範囲を示す)

-65m 国内の地盤改良船による最深の施工実績
-70m 大浦湾における地盤改良工事の最深部分
-90m 約20mの軟弱地盤が未改良のまま残る

最深で水面下90mまで軟弱地盤が存在



※地盤改良工事のイメージ

【軟弱地盤の位置図】